



優勝◆日本通運(A)

佐々木静香、齋藤弘美、鹿又春菜、河野恵利。監督＝了戒明宏

決勝

日本通運A 1(1)―0(0) ALSOK・A

◀試合が動いたのは中堅戦。日本通運の齋藤が絶妙なタイミングでひきゴテを決める。終盤はALSOKの日置が攻勢に転じるが有効打は生まれず、齋藤が一本勝ち(写真右が中堅戦の攻防)。大将戦では追うALSOKの海保が諸手ヅキなどで猛攻をかけるも、終盤はやや息切れの状況となり、そのまま引き分け。日本通運が接戦を制した(写真左が大将戦の攻防、左が鹿又)



準決勝

日本通運A 1(1)―0(0) 富士ゼロックス 東京本社

◀中堅戦は、開始早々、日本通運の齋藤が相手の技を抜き気味に応じてのメンで先制し(写真)、そのまま一本勝ち。富士ゼロックス東京の大將は奥村。必死に手を出すものの対する鹿又も有効打を与えず、日本通運が競り勝つ



第21回関東女子実業団剣道大会

日本通運Aが 6年ぶり 2度目の優勝



平成23年11月13日(日)
東洋大学朝霞キャンパス総合体育館
主催 関東女子実業団剣道連盟
撮影 窪田正仁

3〜4チームでまず総当たりのリーグ戦を行ない、各リーグ上位2チームが決勝トーナメントに進出する。決勝戦で対した日本通運AとALSOK・Aは、予選リーグで対戦している。この対戦が劇的だった。中堅戦を終えて同点。そのまま終わるとALSOKはリーグ1位になり、日本通運は勝者数差でリーグ敗退となってしまう。ここで日本通運Aの大將鹿又が跳び込みドウを奪った。日本通運の了戒明宏監督によれば、残り2秒の決まり技だったという。この一本で、日本通運がリーグ1位、ALSOKが2位となったのである。トーナメントに上がった両軍は接戦を切り抜け、決勝へ。リベンジをしたいALSOKだったが、再びの惜敗に、「流れと勢いは良かったのですが、実力の差です」



準々決勝

日本通運A 1(2)―1(1) ALSOK B

▲中堅戦でALSOKの内海が一本勝ち。大將戦は相上段の戦いとなったが、立ち上がり早々に両者諸手でメンに跳ぶと、これを日本通運の鹿又が制する(写真)。さらに鹿又はひきメンを追加して市村を下すとともに、自軍に逆転勝利を呼び込んだ



トーナメント2回戦

ALSOK A 0(1)代―0(1) パナソニック 電工汐留

◀パナソニック電工がリードを取る場面もあったが結局は3試合とも引き分けに終わる。パナソニック電工からは大將の林が、ALSOKからは先鋒の平山が登場。激しく足を使って攻める平山が、最後は出ゴテを決めた(写真)



2位◆ALSOK(A)
平山絵里、日置唯、海保喜美、関口佐智代、監督＝木村孝

トーナメント2回戦
第一生命 0(0)代―0(0) セントラル 警備保障A

▶前大会の優勝チームと2位がトーナメント序盤で激突。3試合を終えて両軍に有効打はなく、大將による代表戦が行なわれた。長丁場となった代表戦は、第一生命の杉田がひきドウからの出ゴテで決勝(写真は代表戦の攻防)



子実業団剣道大会



3位◆富士ゼロックス東京本社
永松彩香、内山麻美、奥村美里、田島有規、監督＝脇田健之



3位◆第一生命
宮田真由美、中村梓、杉田麻衣子、山口舞、監督＝小林正

